



【古代の収穫作業～石包丁の使い方～】

9月になりまだまだ暑い日が続いていますが、暦の上ではすでに秋ですね。稲の穂も頭を垂れて、収穫の日を待っているかのようです。さて、古代の人々は一体どのような方法で稲の収穫をしていたのでしょうか。

「石包丁」という道具が有名ですね。稲作が全国的に広がった弥生時代の遺跡から出土します。「ほうちょう」という名前から、現在のナイフのように肉や魚を切っていたように思われがちですが、「石ほうちょう」からは調理用に使用していた痕跡は見つかっていません。2つの穴が空いていますが、ここにひもを通して指にかけて、稲の穂先だけをつむための道具ではないかと考えられています。

なぜ、穂先だけをつみとったのでしょうか。現在の稲は品種改良が進み、同じ時期に実ります。しかし弥生時代の稲は同じ田んぼの中でも、実る時期がそろっていません。そのため、実った稲穂だけを選んで「石ほうちょう」でつみとっていたのでしょうか。現在のように機械化された収穫作業とは違い、手作業ですからとても大変だったことでしょう。

文化財センターでは稲の収穫時期に合わせ、9月15日(日)に古代生活体験ワークショップ「石ほうちょうを作ろう」を開催します。本物の「石ほうちょう」とは違って、滑石というやわらかい石で作りますが、石を削りながら刃の形を整え、そして稲の刈り取りを体験していただきます。秋の一時、「石ほうちょう」を作りながら、古代の人々の収穫の喜びに思いを馳せてみませんか・・・。(担当)



「石ほうちょうを作ろう」
日時 9月15日(日)
9:00～16:30(受付16:00まで)
場所 文化財センター第3ギャラリー
参加費 300円(材料費)
小学生以上(3年生以下は保護者同伴)
大人も可 事前申込不要

【白雲 秋風 そして 秋季特別展】

しゅうふうのじ 秋風辞
秋風起こりて 白雲飛び
草木黄ばみ落ちて 雁南に帰る
らん しゅう 菊に芳有り
かじん おも 佳人を懐ひて 忘るる能わず
ろう せん うか 楼船を汎べて 汾河を濟り
中流に横はりて 素波を揚ぐ
しょうこ とうか 簫鼓鳴りて 棹歌を発す
かんらくきわま あいじょう 歓楽極りて 哀情多し
しょうそう いくとき おい いかん 少壮幾時ぞ 老を奈何せん



＜秋風がふきはじめて白い雲が飛び、草木は黄ばんでちり落ち、雁が南に帰っていく。秋蘭(フジバカマ)に花がさき菊が香るこの季節。よい家来(女神 美人とも)が思いおこされて忘れることができない。やぐら船をうかべて汾河をわたり。川の中ほどをよこぎれば白い波があがる。船内で笛や太鼓が鳴りひびいて舟歌がおこる。楽しみがきわまったとき、ふと悲しみの思いが起こってくる。若いときはいつまでも続かない。老いていくわが身をどうしたらいいだろうか。＞

今年はことのほか残暑がきびしく、処暑をすぎやがて白露をむかえる暦のうえの秋はまだ遠くかんじられます。しかし、空では白いうろこ雲が、夏から秋へのたしかな季節のうつろいを実感させてくれます。

文化財センターでは、現在、10月からの特別展にむけた準備がすすんでおり、タイトルは「城・城下町のくらし—その成り立ちにせまる—」にきまりました。これは、中世から近世にいたる城・城下町の成り立ちや変遷の歴史を、松阪市および県内における発掘調査の成果等をもとに考察するものです。

どうかご期待下さい。

武帝 前漢(前156年～前87年)の基礎を確立した第7代皇帝 (所長)

文化財センター はにわ館 & ギャラリー 9月の催し物予定

9月の休館日は、2日(月)、9日(月)、17日(火)、24日(火)、30日(月)です。
開館時間は9時～17時です(入館は16時30分まで)。

【はにわ館】 入館料100円(18歳以下無料)
第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

【ギャラリー】 入場無料
第1・2・3G ■平成25年度松阪市児童生徒科学作品展 9/7(土)～9/8(日)*毎日16:00まで
第1G ■奥伊勢フォトクラブ・大台写真倶楽部・フォトサークル撮ライ「No Photo No Life 写真展」
9/12(木)～9/16(月・祝) ※最終日は16:00まで
第3G ■古代生活体験ワークショップ「石ほうちょうを作ろう」9/15(日)9:00～16:30(受付16:00まで)
対象:小学生以上(3年生以下は保護者同伴)大人も可 参加費:300円(材料費)20名程度 事前申込不要
第2G ■第1回キャンノンフォトクラブ伊勢 写真展 9/16(月・祝)～9/22(日)*最終日は16:00まで
第1・2・3G ■第54回松阪市美術展覧会(絵画・彫刻・工芸)
10/5(土)～10/14(月・祝) ※10/12(土)は19:00まで、最終日は15:00まで